

項目	具体的な取組	主担当	評価の観点	達成度評価基準	達成度	成果（○）と課題（▲） 今後の具体的な取組（・）について	学校関係者評価（評議員の方からの助言と評価）	
主体的に活動しようとする姿勢づくり	○キャリア教育の推進 ・生活年間目標を通した集団づくり ・生徒指導の4視点を活かした諸活動の推進 ・情報共有と各アンケートをいかした迅速な対応(生徒指導便り・児童理解等の活用) ・外部機関との連携 （発達支援室・ケース会議）	生徒指導	○児童がお互いに助け合い、協力して活動する場をつくるとともに、友だちとの温かな関係づくりにつながっている。	□児童アンケート ①「楽しく学校生活を送っている」 ②「自分にはよいところがある」 □保護者アンケート 「お子様は学校に楽しく通っている」 A：85％以上 B:80％以上 C：80％未満	①児童：A（93％） ②児童：B（82％） 保護者：A（93％）	○振り返り、評価まで意識した生活目標のしくみをつくった。 学校研究と絡め、「授業における生徒指導」を提示し、普段の授業から、生徒指導の4視点を意識した授業づくりの具体を示した。また、月1回の「輪島っ子アンケート」や学期に1回の「保護者アンケート」より、児童への定期的な聞き取り、情報共有の仕組みが確立されている。 ▲未だ学校間での隔たりや偏見が見られることがある。 ・学年集会を積極的に開き、クラス間の繋がりを高める。 ・各行事や縦割り班活動等で協力場面を意図的につくことで、クラス間、学年間の繋がりを強くしていく。	・学校生活で縦割り活動に慣れてきて、三夜踊りクラブでも大人の助言を5年生が1年生に伝えて活動してくれて助かっています。良い成果が出ています。 ・1ページの経営ビジョンで、文章表現に違和感を感じます。2の教育理念の「自己肯定」や「他者肯定」は誰が誰に気付かせるのでしょうか？称えるのでしょうか？3の「子どもたちの可能性」を？4の【明るくたくましい子】の「自肯定感が高く」は「自己肯定感」ではないでしょうか？5や6についても文章を吟味していただければ良いと思います。 ・児童、保護者のアンケートにおいて否定意見が7％あり、どのような対応、指導をしているのか。	A 6 7％ B 3 3％ C 0％ D 0％ A+B 1 0 0％
	○生活リズムの改善 ・年3回の調査 ・毎月の実態把握と意識付け ○家庭学習の習慣化 ・家庭学習の意義を考え、実践意欲を高める学級活動 ・保護者への発信	学力向上部会 生活力向上部会	○児童が自らの生活を意識し、生活を改善しようとしている。	□児童・保護者アンケート 各学年の家庭学習時間を達成した割合 低中高学年×10分 1年・2年：20分 3年・4年：40分 5年・6年：60分 A:80％以上 B:60％以上 C:60％未満	児童：A（83％） 保護者：C（59％）	○家庭学習の習慣化に向け、自学の手引きを作成・配布して指導を行った。 ▲自学の内容が常に同じものになってしまい、自分の力を高めるような内容を選んで取り組めていない児童がいる。 ・学級内で自学ノートの交流会を行ったり、よい自学を定期的に紹介したりして、質の向上を図る。 ・学期ごとに内容をレベルアップできるように手引きの見直しを行い、配付して指導を行っていく。	・家庭学習は保護者の協力も必要かと思えます。自学の手引き作成は良い取り組みだと思います。 ・校長先生がお話をされていましたが、学校にいる児童を教育するだけではなく、児童を通して保護者や地域にまで影響を与えるのであれば、保護者の回答が59％なの寂しいです。 ・先生方の指導取組は概ね満足ですが、家庭での取組がもう少し必要だと感じます。 ・生活リズムは、家庭、保護者の協力が不可欠なので挨拶も含めて、子どもに関わってほしい。保護者がスマホを見ながら…ではなく、子どもと向き合って話を聞くなどしてほしい。 ・児童には、その学期の状態を、保護者には、その評価の視点等を見直していただく必要があるのでは。 ・生活環境で大きな差が出ていると思う。	A 2 5％ B 4 2％ C 2 5％ D 8％ A+B 6 7％
	○児童の企画運営による特別活動 ・全校集会 ・運動会 ・各委員会の活動 ○成果の「見える化」による自己肯定感の高揚 ・写真、動画、キャリアパスポートなどでの振り返り	特別活動	○児童が自分たちで決め、協力して活動する場をつくり、それが、満足感や達成感につながっている。	□児童アンケート 「学級や学校をよりよくするために自分たちで考えて行動している」と答えた児童の割合 A：80％以上 B:70％以上 C：70％未満	児童：A（91％）	○学級委員と中心としたリーダー会を2回開き、各学級の意見を吸い上げることで、自分たちでよりよい学校を創っていく行動ができた。また、縦割り班活動が始まり、異学年交流の中での繋がりをつくっていく素地が整った。 ▲学級委員、各委員会の委員長が中心となるため、それ以外の児童が自分たちで学校を創っていているという意識が薄い。 ・全校集会や委員会からの呼びかけで、自分たちの意見が反映されていることを積極的に伝えていく。	・大人数になったことで各学年の交流が難しくなったと思いますが縦割り班活動などを通していろんな意見を聞いて企画運営してほしいです。 ・児童主体の取組は非常に良いと感じます。 ・狭いながらも、外での運動会が行えて良かったです。もう少し、6年生の力を借りる場面があったかもしれません。 ・「特になし」とは記入しにくいですが、特になしだと集計しやすいのかな？	A 6 7％ B 3 3％ C 0％ D 0％ A+B 1 0 0％
	○自己の生き方について考えを深めたり、広めたりする道徳の授業力向上 ・問いの工夫（メインの問いと、児童の思考に沿った切り返し発問） ・視点をもたせた他者との対話、自己対話	道徳推進	○児童が自分自身の生き方について深く考えようとしている。	□児童アンケート 道徳の時間が自分に生き方に役立っていると答えた児童の割合 A:80％以上 B:70％以上 C:70％未満	児童：A（88％）	○研修で学んだこと（考え、議論する道徳の授業にするための工夫や指導案の流れ等）を教職員に還元し、共通理解を図った。 ▲各学年がどのような道徳の授業を行っているのか、共有ができていない。 ・各学年が実施した道徳の授業を共有できるように、板書を残したり資料を作成したりしていくことで、教職員の道徳の授業力向上につなげていく。	・5教科と比べて、軽く見られがちな「道徳」だけれど、自他の違いや協調性など毎日欠かせないことなので、根気強くお願いします。 ・評価委員会の時にイジメの話や状況説明をしてほしかった。	A 5 0％ B 4 2％ C 8％ D 0％ A+B 9 2％
学力と体力の向上	【自ら目標に向かって学びを進める輪島っ子を目指して】 ○自己決定を通して、自らの目標に向かって学習を進めることができる ・ねらいを達成するための自己決定の選択 ・自らの学び方についての振り返りの設定 ・見とりと支援で、児童個々の学習のねらい達成 ○聴く力を育み、児童どうしが関わり合いながら学びを深める ・主体的に聴くことができている児童への肯定的評価と価値づけの実施 ・自分の考えを伝える場の設定 ※輪島市学力向上のための数値目標 ・市学力調査正答率目標数値 国・算・理・社 70％	学校研究	○課題解決をするために必要な自己決定を行うことができる。 【①②で検証】 ○自らの学び方を振り返り、それを生かしてよりよい自己決定を行うことができる。 【⑤⑥で検証】 ○主体的に話し合いに参加し、自分の考えを述べている。 【③④で検証】	□児童・職員・保護者アンケート ①授業は分かりやすい（児） ②課題や問題を解決するための方法を自分で選べたか（児） ③自分が選んだ方法を用いて考えをもつことができたか（児） ④自分の考えを積極的に友達に伝えようとしたか（児） ⑤学び方の振り返りの場を設定したか（職） ⑥子どもの自己決定の質はよりよいものに向かっているか（職） ⑦お子さんは学校で勉強する内容が分かっている（保） A:80％以上 B:70％以上 C:70％未満	①児童：A（93％） ②児童：A（88％） ③児童：A（91％） ④児童：A（88％） ⑤職員：B（76％） ⑥職員：A（87％） ⑦保護者：A（84％）	○授業において、児童は教師から提示された複数の選択肢の中から、自己決定して課題に意欲的に取り組むことができている。 ▲自己決定して選択肢したものが、課題を解決したり、自分を高めたりするような決定になっていない児童がいる。 ・導入段階において、児童の興味関心を引きつけるような授業を行うことで、児童が課題意識を明確にもって授業に参加できるようにする。 ・定期的に自分の学び方の振り返りを行い、自分を高めることができるような自己決定を行えるようにする。 ○主体的に聴くことができる児童への肯定的な評価や価値づけは意識して行うことができている。 ▲教師や友達の話の内容を考えながら聞くことが難しい児童がいる。 ・話し合い場面では、児童が何をどう話し合うのか、目的が分かるように、教師は視点を明確にする。	・興味、関心も違う大勢の児童を教えるのは難しいと思いますが様々な先生方の指導方法などを参考にして授業をして下さい。 ・職員や保護者のアンケートの結果向上をお願いします。 ・保護者の方々に家庭学習の環境作りをお願いしたいです。仮設住宅だと狭さもあり、大変だと思いますが…。 ・授業の見学をする機会があまりないので様子がわからないから何も言えない。	A 4 2％ B 5 0％ C 8％ D 0％ A+B 9 2％

	英語　80％ ・輪島市児童読書目標冊数 1ヶ月平均冊数　12冊（4～6年）							
	○体力の向上 ・準備運動時の補強運動 ・体育委員会主催の運動タイムの設定 ・休み時間の運動ウィークの設定	体育担当	○児童の体力の向上を図ることができる体育科の実践と体育的行事の設定	□児童・保護者アンケート 運動に親しむことができた（児）学校は体力の向上に努めている（保） A:80％以上　B:60％以上 C:60％未満	児童：A (92%) 保護者：B (65%)	○体育の準備運動時にスポチャレに取り組むことができおり、運動に親しむことができている。 ○体育委員会が主催となって、児童が運動に取り組む機会をつくるができている。 ▲活発に運動する児童とそうでない児童で2極化している。 ・体育委員が中心となり、昼休みに気軽にできる短時間の運動企画を継続的に実施する。	・体育の時間以外で体を動かせる所が少なくなりました大人も含めて、思いっきり体を動かせる所が出来ると嬉しいです。 ・保護者の方に伝わる様な努力をお願いします。 ・二極化について、苦手な児童にも興味を持って取り組めるような活動(種目)が出来ると良いですね。 ・運動器具を寄付してもらったようなので、これからは、冬期になる事だし十分に活用して、体を動かしてもらえればいいのでは。	A　3 3％ B　5 0％ C　1 7％ D　　0％ A+B 8 3％
職員の協働体制の確立	○職員の能力の開発や人材育成 ・若手教員育成プログラム ・校内研修（学校研究やGIGA等）	管理職	○校内研修が適切に行われ、各部会や推進委員会が、組織的な人材育成の視点で行われている。	□職員アンケート 「校内研修が業務に生かされていると感じる」教員の割合 A:80％以上　B:60％以上　C:60％未満	職員：A (100%)	○各担当が連携を密にし、児童の学び続ける力を育成できる授業の形を、全教職員で考え、日々の授業に生かすことができる研修を開催している。若手教員育成プログラムでは、教員として、今後必要となる内容を研修に盛り込み、計画的に研修を開催している。 ▲今後も職員個々（特に経験年数10年未満）が有用感を味わえる研修を開催していくことが重要になる。 ・学級経営のポイント、児童の学ぶ意欲を高める授業（効果的な導入）、児童個々に寄り添う生徒指導等	・若い先生が多いと聞きました何事においても連携を取りながら研修や育成プログラムなどで児童に寄り添う生徒指導をお願いします。 ・引き続き子供達の成長に向けた、先生方の学びを期待します。 ・校内研修が充実していて何よりです。	A　8 4％ B　　8％ C　　8％ D　　0％ A+B 9 2％
	○教職員の働き方に関する意識の改革 ・業務の効率化 ・個人面談による個々の業務への指導・助言		○職員は終了時刻を意識して計画的に業務を進めている。	□職員アンケートと勤務実態 時間外勤務時間が月45時間以内の職員の割合 A:90％以上　B:70％以上　C:70％未満	C (36%) ※8月末時点	○8月期は45時間以内の職員が100％となった。繁忙期においても見通しをもち業務を進めようとする姿がある。午後7時には退勤する取組は浸透しており、業務の平準化を更に進め、時間外勤務時間の短縮をめざす。 ▲業務の平準化（経験年数・担当業務等を考慮しての平準化） ・職員個々の実情に合わせながら週1回の定時退校日を設定する。（時間外2.5時間×4回＝10時間の短縮）	・遅くまで職員室に電気が付いているのは前からの事。職員間で協力し合って何とか時間を生み出して早く終わるように努力して下さい。 ・引き続き業務の平準化や、ノー残業デーなどの取組を期待します。 ・先生方とは関わる事もないですが、学校に訪れさせてもらった時は、頑張られていらっしゃる感じます。次年度からは評価委員の人数も減と思うので、学校だよりを評価委員にも配っていただければ、学校の様子が見えてくるのではないのでしょうか。 ・国が根本的に見直しをする必要があると考えます。 ・環境が特別な中で努力されていると思います。	A　　0％ B　4 2％ C　4 2％ D　1 6％ A+B 4 2％
地域連携と貢献	○子どもの様子をタイムリーに配信 ・学校HPの更新 ・月2回以上の学年便り	情報担当 各学年	○職員は児童の様子を地域や保護者に積極的に配信している。	□学年だより発行数 月2回以上学年（学級だよりも含む）だよりを発行した学級の割合 A:90％以上　B:80％以上　C:80％未満	C (67%) ※1学期末	▲学校ホームページの更新は、平均で月3回程度である。 ・複数人で分担したりサポート体制を充実させたりする。 ・定期的な「更新日」を設定する。	・以前は学校だよりなどが回覧板で自宅に回ってきたので児童の様子が分かりましたHPを見れない人もいると思うので難しいと思いますが何かしらの方法で学校の様子が分かればよいです。 ・大変ですが電子化・ペーパーによる発信も含め、引き続きよろしく願います。 ・年間の大まかな行事予定の保護者へのお知らせは必要だと思います。仕事を休むにあたっての職場への周知などあると思います。 ・学年だより、学級だよりを月に各1回の2回以上は妥当と思われます。可能なら全てHPで行えないでしょうか。 ・+αの仕事になるので、大変さは重々理解できます。	A　　0％ B　5 0％ C　4 2％ D　　8％ A+B 5 0％
	○地域素材を取り入れた総合的な学習の時間の計画と実践 第3学年テーマ：発見、輪島のじまん 第4学年テーマ：輪島の魅力を伝えよう 第5学年テーマ：ふるさと輪島再発見 海・漆・自然 第6学年テーマ：輝く未来の輪島を創造する	各主任	○輪島の地域素材を活用した、創造的復興を含むふるさと学習に対して児童自身が有用感や達成感を感じている。	□児童アンケート 「生活科や総合的な学習の時間がふるさと輪島を学習することが好きである」と答えた児童の割合 A:80％以上　B:60％以上　C:60％未満	児童：A (87%)	○昨年度、総合的な学習の時間の教育課程を見直し、来年度の復興教育を見据えたものになっている。1学期の復興音楽会を行った際にそれぞれの学年で取り組んでいる地域学習の成果を発表し、地域や保護者の方に発信することができた。その成果もあって、児童アンケートでは「輪島を学習することが好きである」と回答した児童が87％と高かった。 ▲2学期の実践が実りのあるものになるように最終発表の機会を各学年で設定し、それまでの学習に取り組んでいく必要がある。	・復興音楽祭で多くの大人が子どもたちから感動と勇気をもらいました。小学生が「輪島が好き」と思ってくれることを嬉しく感じました。これも先生方の日々のご配慮と感謝です。統合に向け、新しい学校作りに各学校のどんな良さが取り入れられてくるのか楽しみです。 ・防犯対策をはじめ、今後防災教育が、学校でもどのように実施されていくのか期待しています。 ・防災教育、復興教育など地域を学習する事は大切だと思うので成果の発表が楽しみです。 ・子供達がテーマに沿って自ら考える取組は良いと思います。自分の生まれ育った町が更に好きになって欲しいです。 ・6月の復興音楽祭、良かったです。各学年テーマを決めての発表、一生懸命でしたね。市民文化祭で三夜踊りクラブの児童6名が舞台に出演しました。控室で「嫌だ、出たくない」と言っていた子達も、舞台上では真剣に演技してくれていました。その後、客席の間を通ると皆さんが微笑ましく眺めてくれて良かったです。少しの緊張感の子ども達への成長へとつながると感じています。	A　6 7％ B　3 3％ C　　0％ D　　0％ A+B 1 0 0％